



2022年4月27日

各位

会社名 住友理工株式会社
 代表者名 執行役員社長 清水 和志
 (コード: 5191 東証プライム・名証プレミア)
 問合せ先責任者 決算税務部長 佐藤 剛司
 (TEL. 052-571-0200)

連結業績予想修正及び減損損失計上に関するお知らせ

当社は、2022年4月27日開催の取締役会において、2021年11月1日に公表しました2022年3月期の通期連結業績予想値を修正するとともに、減損損失を計上することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期連結業績予想値の修正(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	事業利益※	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に 帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	455,000	6,000	3,500	2,500	△2,100	△4,300	△41.42
今回発表予想(B)	446,000	6,400	1,100	300	△4,100	△6,400	△61.64
増減額(B-A)	△9,000	400	△2,400	△2,200	△2,000	△2,100	△20.22
増減率(%)	△2.0%	6.7%	△68.6%	△88.0%	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	397,940	7,862	227	△608	△3,443	△4,957	△47.74

※事業利益は、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除し、持分法による損益を含めて算出しております。

2. 修正の理由

連結売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大によるサプライチェーンの混乱や世界的な半導体不足による顧客の生産調整の影響を受け、前回予想を下回る見込みです。事業利益につきましては、売上高が予想を下回る見込みとなったものの、経費支出の抑制、原材料価格高騰分の売価反映努力などにより、前回予想並みとなる見込みです。

しかしながら、原材料高騰、米国向け海上輸送費の上昇、米国での人件費の上昇による収益性の低下から、米州子会社2社で減損損失を計上することとなり、営業利益、税引前利益、当期利益および親会社の所有者に帰属する当期利益いずれも前回予想を下回る見込みとなったことから、通期業績予想を修正いたします。

3. 固定資産に係る減損損失の計上について(連結決算)

当社の連結子会社である SumiRiko Tennessee, Inc. (以下、SRK-TN)及び SumiRiko Ohio, Inc. (以下、SRK-OH)の固定資産を対象に合計4,605百万円の減損損失を計上いたします。

〈当該事象の内容〉

SRK-TNとSRK-OHにおいては、鋼材等の原材料価格の高騰や米国向け海上輸送需給逼迫に伴う輸送費の上昇、米国労働市場逼迫に伴う人件費の上昇を受けて、経営環境が悪化しております。原材料価格、輸送費ともに過去にない価格上昇が同社業績を圧迫しており収益性を低下させております。原材料・輸送費高騰の動向も不透明ななか、事業計画を検討した結果、固定資産(建物、生産設備等)の簿価の全額を回収することは困難であると判断し、減損損失を計上いたします。

今後は、コスト上昇分の売価反映や原価低減など業績改善活動を推し進め、収益性向上に努めてまいります。

4. 特別損失の計上について(個別決算)

個別決算において、連結子会社の財政状態を踏まえ、関係会社事業損失引当金繰入額2,977百万円を特別損失に計上いたします。なお、当該損失は連結決算において消去されるため、連結損益への影響はございません。

以上